

1、事前合宿、準備について

直前合宿は、アルビンスポーツパークにて行った。

トレーニングマッチや外部コーチの協力の元、ブリスベンへの出発前に選手同士のコミュニケーションを多く取ることができた。また生活を共にする事で、起床、食事、トレーニング、就寝等、コンディショニングを整え規則正しい生活リズム、またトレーニングに集中できる環境が整えられた。

主務としては、練習時の水や氷の対応、ビデオ、写真撮影、スケジュール管理調整、食事支払いの管理、広報対応を行った。

2、ブリスベンに向けて

選手・スタッフの個人荷物 14 名分と、チーム荷物(ユニフォーム、脱水機、ドリンクパウダー、クーラーボックス、生活備品、トレーニング用品、ボール、ドクターバック、マッサージベット)合計 23 個を持ち、出発した。

荷物には選手が日本フットサルチームの荷物と一目でわかるよう、黄色ガムテープを貼り、移動時に漏れの無いように確認した。

ほとんど時差のない環境だったので、体調不良者は出なかったが、飛行機の中で私物の紛失(Airpods)、またパスポート所在不明の場面があった。



梱包、黄色テープで荷物の受取はスムーズだった

3、ホテルでの生活

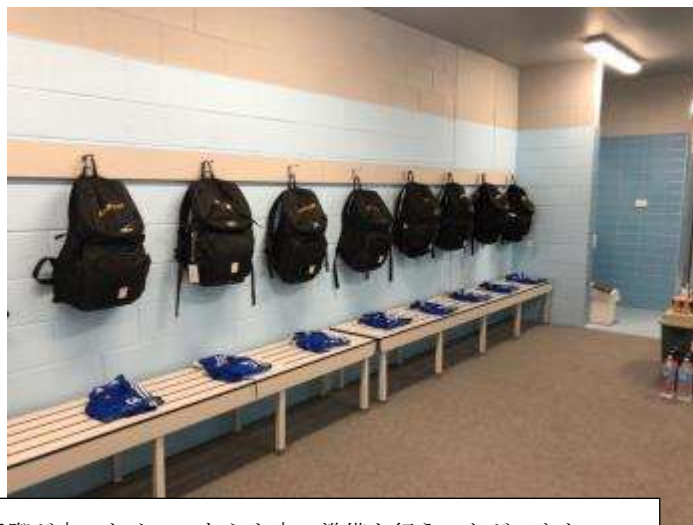
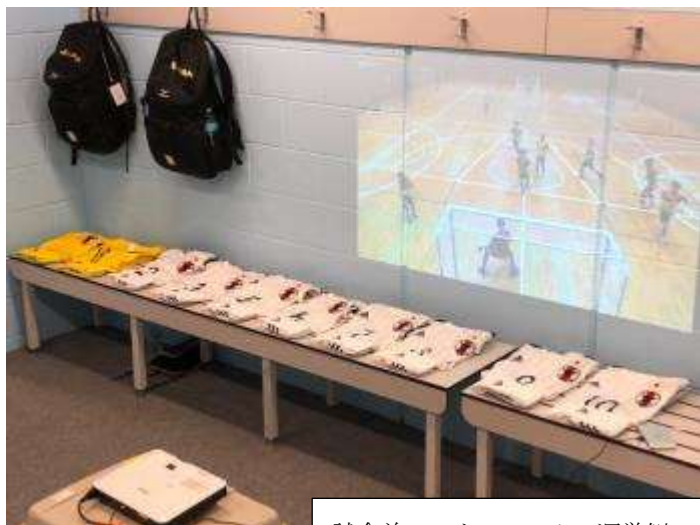
ブリスベンのビジネス中心街のホテルでの滞在となった。

選手は 2 名ずつの部屋割りとなったが、宿泊フロアがバラバラであったため、洗濯や荷物の分担など、LINE を通してのやり取りが不可欠であった。朝食・夕食はホテル内で取れ、スケジュールが組み易く、バイキング形式で、野菜、肉、魚、パン、米、果物、デザートが十分に準備されていた。昼食は、ホテル・試合会場全て、サブウェイであった。アスリートが取る食事として、毎日サブウェイというのは栄養エネルギーとしても不十分だった。当初本部に改善を求めたが、こちらは既に決まった内容であったため変更はされなかった。近くにコンビニやスーパーがあり、トレーニングや試合に必要な補食、水は準備し易く、試合前後の補食について、しっかり準備ができた。また氷はホテルの kitchen で必要な分を都度頂く事ができた。基本的に個別行動はせず、買い物に行く際は、選手達は 2 つのグループで常に点呼を取りながら、行動した。

4、試合会場や現地でのスケジュール

移動は全てバスとなった。準備されたバスは、時間・場所が決まっており概ね時間通りに運行されていた。ホテルから試合会場までは問題なかったが、試合会場からホテルまでは時間帯が合わず、交渉が必要な場面があったが英語堪能な小林コーチのおかげで、事なきを得た。スケジュール、諸連絡は本部からのお知

らせを元に確認し、大きなトラブルはなかった。確認が必要な時はその場で確認する事ができた。
試合会場はロッカールームも清潔で、ピッチ環境も良好であった。水の準備があるとのことだったが、用意されていたのはウォーターサーバーだった。会場には冷水機もあり準備をスムーズに行う事ができた。



試合前ロッカールーム 運営側の手際が良いため、こちらも良い準備を行うことができた。

5、試合時の対応

マッチコーディネーションミーティング、スケジュールの確認、
ビデオ・写真撮影、水、氷の準備、ユニフォーム準備
タイムアウト時補食、水準備
広報活動



AFC理事が毎日ロッカールームへ スポーツの価値を感じた。



昼食では足りないため、現地調達の前食でカバー

6、主務として

現地では、選手の貴重品管理、鍵の管理、
選手証の管理、
補食準備
本部とのやり取り、
広報活動を主に行っていた。

7、全体を通して

スタッフ：今回は、監督・コーチ・トレーナー・主務の4名であったため、お互いの協力無くしては対応が難しい状況であった。主務で行うべき事もあったが、試合会場では応援にお越しいただく方のサポート、協力無くしては対応できなかった。監督には多くの負担がかかってしまった点が反省点である。

ピッチ内外での主務の配置があったほうが、監督、コーチ、トレーナーはより選手、試合に専念できると感じる。

選手：今回の大会のテーマは自立と自律

かなりの過密スケジュールとなったが、選手達は大きな怪我や疲れを引きずることなく、目の前の試合に全力で取り組む事ができた。ミーティングでも発言が増えていき、ピッチ、ベンチでも互いに声をかけあい、自分たちがどうしたいのか、どうするべきか フットサルに向き合い、考え、取り組む事ができていた。短期間でも大きな成長を感じる事ができた。

しかし、課題も残る。

代表選手として意識して行動できた選手は少ない。洗濯やチームの荷物についても無関心、積極的に対応しない場面も何度もあり、その都度注意が必要だった。言われた先から対応できない、話を聞いていない、等

海外という地にはとても早く馴染めていた。代表チームであるという意識に差があり、プレーにもその点が出ていたように感じた。各国の選手とコミュニケーションを取れたことはとてもよかった点であるが、反省すべき点も多かった。

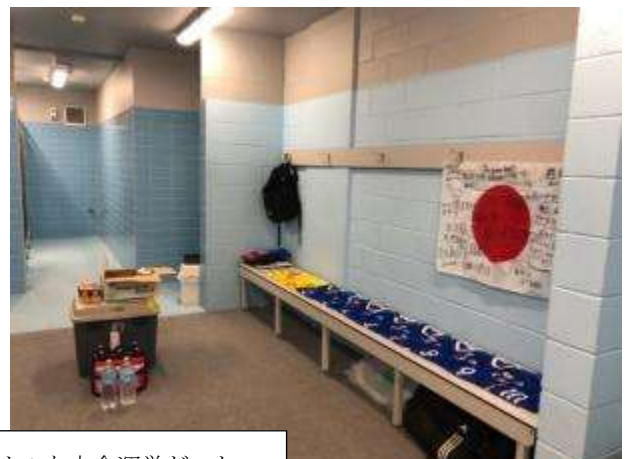
8、課題

選手スタッフ間の信頼関係の構築

スタッフがいければ、気が付かなければ、バレなければ…そう言った行動が目立ったように感じる。競技だけでなく、生活行動面も代表選手としての育成が必要で、スタッフも知識が必要である。

リーダーシップがとれ、周りのことを理解できる選手もいる。

選手の成長を感じることはとても良いことなので、それぞれのできる能力を引き出していけるように、選手のことを理解し一人一人に向きあうことが必要だと感じた。



フットサル担当責任者 非常に友好的かつ、プロフェッショナルな大会運営だった